

# 大分県公共施設等総合管理指針の概要

平成27年7月

○本県では、庁舎等の公共施設のほか、橋梁やトンネル等のインフラ施設を多数保有 → 老朽化が進行 → **公共施設等の老朽化対策は喫緊の課題**

## (1) 大分県の公共施設等の状況

### 1) 県有建築物

- 主な施設
  - ① 県立学校施設: 約82万2千㎡ (約36%)
  - ② 県営住宅: 約58万2千㎡ (約25%)
  - ③ 庁舎等: 約14万1千㎡ (約6%)  
など 総延べ床面積: 約229万㎡
- 老朽化の状況
  - 築30年以上: 約52% (26年度末)
  - **10年後には全体の4分の3近くの約74%の施設が築30年以上経過**

### 2) 公共インフラ施設

- 主な施設
  - ・橋梁: 2,437橋 ・トンネル: 252箇所
  - ・治水ダム: 9基 ・かんがい用ダム: 14基  
など
- 老朽化の状況 (橋梁の例)
  - 架設後50年以上: 約30% (26年度末)
  - **10年後には全体の半数以上の約50%の施設が架設後50年以上経過**

### 3) 公営企業施設

- 主な施設
  - ・企業局: 水力発電所12箇所など
  - ・病院局: 病院1施設
- 老朽化の状況
  - ・企業局: **事業開始から60年以上経過**
  - ・病院局: **建設後20年以上経過**

## (2) 策定趣旨

- 施設の老朽化
- 厳しい財政状況
- 人口減少の進行

今後概ね10～20年間を見通し、公共施設等の計画的管理について、基本的な考え方・方針を示すもの

- ・ 施設保有のあり方
- ・ 長寿命化の方針
- ・ 機能発揮の方針

- **財政負担の軽減、平準化**
- **施設の長寿命化**

## (3) 基本方針

### 1) 県有建築物

- ① **施設総量の縮小**  
施設の用途廃止や集約化により総量を縮小
- ② **施設の長寿命化**  
予防保全を導入し、主要な施設を長寿命化
- ③ **管理体制の一元化**  
知事部局、教育庁など所管毎に管理体制を一元化

### 2) 公共インフラ施設

- ① **機能の確実な発揮**  
点検・診断等に基づき、対策の優先順位を付け、補修・補強工事により長寿命化
- ② **必要性の十分な検証**  
必要性・費用対効果等を十分に検証し、施設を新設・更新・廃止
- ③ **施設情報の一元化**  
点検結果や補修履歴等を一元的に管理し、次の点検・補修等に活用

### 3) 公営企業施設

県有建築物、公共インフラ施設の基本方針を参考に、健全経営の枠組みの中で施設管理

## (4) 個別施設計画の策定

- 各個別施設の特性等を踏まえ点検・診断や修繕・更新等の具体的な取組計画を策定
- 保全経費の見込みを積算

## (5) 取組の効果

県有建築物の今後20年間の改修・更新経費見込み額

総額 約1,893億円 A  
(約95億円/年)

予防保全を導入し、長寿命化を推進

総額 約1,374億円 B  
(約69億円/年)<sup>a</sup>

縮減額 ▲約519億円 A-B  
(▲約26億円/年)

予算額との比較

○ 過去5年間平均予算額 約47億円/年  
→ **なお約22億円/年の不足**<sup>b</sup>

財源確保の取組<sup>a-b</sup>

- ① **基金への積立てを強化**
- ② **有利な地方債の活用**